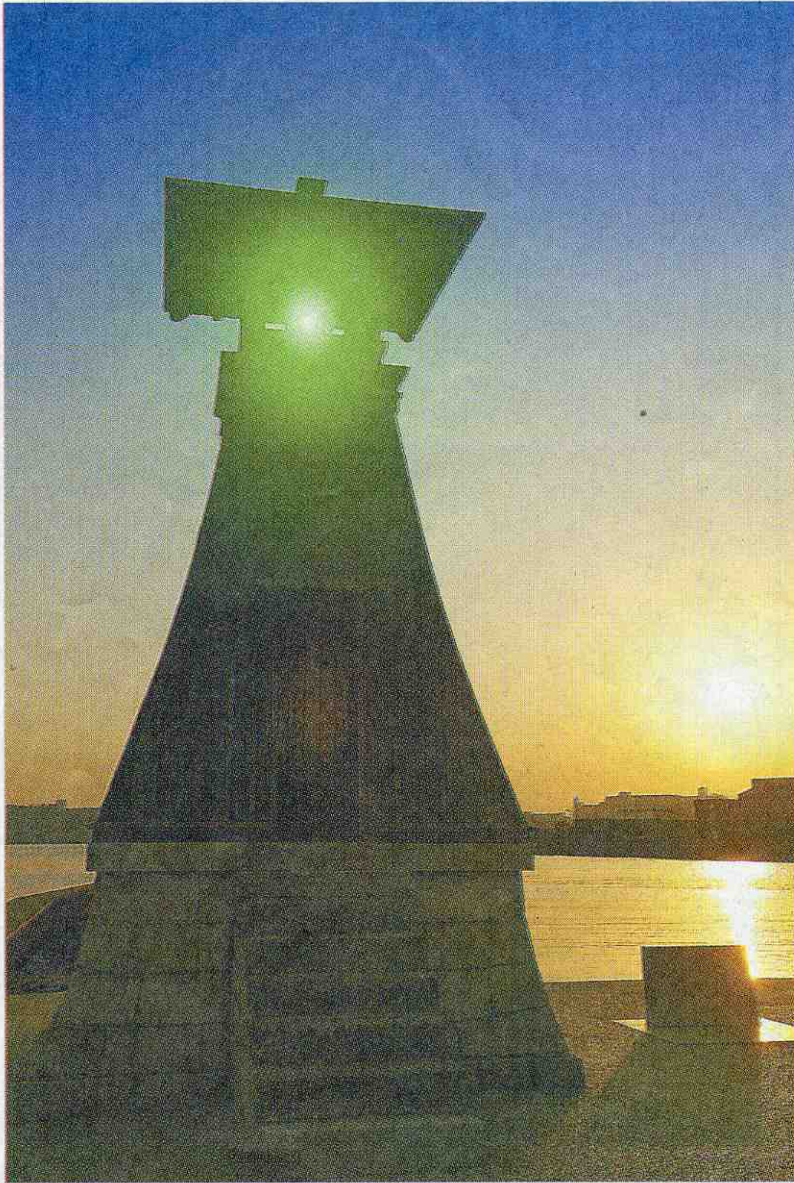


07.5.10

海の安全を守る江戸の光

今津灯台は石の基壇の上に建ち、高さは約6.7メートル。そばに今津港築港200周年と樽廻船の記念碑も建っている（写真は夕方と夜の灯台を合成）



はんしん
news

写真・文 山田哲也

46

西宮市今津西浜町の今津港に江戸時代に建てられた現役最古の灯台がある。同灯台は大関酒造の長部家五代目長兵衛が1810（文化7）年に、清酒を江戸に運ぶ樽廻船や漁船の安全を願って、私費を投じて建てた灯台が起源となっている。

今津灯台

現存する灯台は、六代目文次郎が1858（安政5）年に再建したものの、木造で桡（はたき）が開いたような形をしている。創建以来、大関酒造の丁稚（ぢぢ）が毎夕欠かさず油2合をもって点灯に行くのが習わしになっていた。大正時代初めに電化され灯明から電球に変わった。1965（昭和40）年、107年ぶりに解体復元が行われ、74年に西宮市指定重要有形文化財に指定された。現在、今津港周辺は防潮堤が作られ高層住宅が建ち、沖合は埋立られて様相がすっかり変わってしまった。その中で、今津灯台は江戸の面影を留めるシンボルとして、今も緑色の光を放ち海の安全を見守っている。

